

平成14年8月15日発行

## 農林水産政策情報センター

### トピックス

#### 平成13年度農林水産省政策評価結果

農林水産省は、このほど「平成13年度農林水産省政策評価結果」を公表しました。70政策分野、159指標のうち、超過達成になったものおよび定量的評価が実施できなかったものを除いた123指標では、Aが58、Bが24、Cが41となっています。BSEの発生等の状況の変化から、現在の目標値のみによる評価では十分とはいえない5の指標については達成度合のランク付けは行われていません。

また、13年度から実施することになった政策手段別評価については、対象事業の必要性、有効性、効率性の観点から評価を行い、144政策手段、180事業について評価を行った結果、現時点で評価を行うことが困難な18事業を除いた162事業のうち、22の事業について、必要性の低下等により、廃止を前提に検討が必要であると指摘しています。

<http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/kikaku/hyoka/13/13seikekka.htm>

#### 農林水産省 牛海綿状脳症対策基本計画

農林水産省は、このほど牛海綿状脳症対策特別措置法（平成14年法律第70号）第4条に基づき、「牛海綿状脳症対策基本計画」を策定しました。

基本計画では、BSE清浄国への復帰を図るため、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションといった「リスク分析」の考え方に基づいた的確な対応措置を講じ、生産者から消費者までの安全・安心の確保を図るとするとして、BSE検査の実施、死亡牛の検査体制の整備等のBSEのまん延防止のための措置、正確な情報の伝達、関係行政機関および地方公共団体の協力等を明らかにしています。

[http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020730press\\_5.htm](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020730press_5.htm)

#### 農林水産省 食品の表示に関するアンケート結果

農林水産省は、平成14年5月の1か月間にインターネットを通じて行った「食品表示に関する調査」結果を公表しました。食品を購入する際における表示の確認については、「以前から必ず確認して購入している」が71.7%、「最近確認して購入している」が22.1%となっています。表示を確認する際に重視しているものは、賞味期限、原産地、食品添加物、原材料が多くなっています。食品表示については、「分かりにくく不満である」が72.5%で、その理由として、知りたい情報がない、曖昧な表示が多いがあげられています。

[http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020730press\\_7.html](http://www.maff.go.jp/www/press/cont/20020730press_7.html)

#### 三重県全庁アセスメント結果

三重県では、行政経営品質向上活動に全庁を挙げて取り組んでいますが、平成13年度のアセスメント結果が公表されました。評価を行ったのは、(財)社会経済生産性本部で、11年度と同じ「B+」の評価結果であったとしています。高い評価を受けたものとしては、「生活者起点の行政」、「さわやか運動」、「三重くにづくり宣言」、「行政システム改革」などで、厳しい評価を受けたものは、成果の表示方法です。

なお、三重県では、行政経営品質向上活動を推進するため、14年度は、庁内推進体制の強化、部局間相互アセスメントの実施、マネジメント単位での取組みの推進、職員研修会の開催を行うとしています。

<http://www.pref.mie.jp/GYOUSEI/gyousei/2002070661.htm>

#### 総務省「政策評価情報の所在案内窓口」を開設

総務省は、政策評価に関する情報の所在案内を行うとともに、政策評価制度全般に係る問合せを受け付ける窓口を本省と行政評価事務所等に開設しました。

<http://www.soumu.go.jp/kansatu/index.htm>

## 情報提供等に係る当センターからの提言

6月19日に、渡辺農林水産事務次官に対して、当センターの大河原代表から、これまでの調査研究の成果を踏まえて「提言」を行ったが、本22号では、このうち、「農林水産情報の提供等に関する提言」について、概要を紹介する。

1. 農林水産分野の情報提供に当たっては、農林水産省の関係部局、独立行政法人と関係団体が一体となって、効率的、効果的に実施していくことが必要である。各組織のホームページの設計および運営に当たっては、協議・調整することが求められる。その場合、団体が有する情報を生かすとともに、積極的な情報提供活動を促す観点に立って、これまでややもするとみられた上下関係といった関係ではなく、対等な関係に立ったパートナーシップとすること、このため、農林水産省と団体、および団体相互間をコーディネートすることが必要で、農林水産省の積極的なイニシアティブの発揮が求められる。
2. 1のパートナーシップの構築に加えて、体系的に整備された情報システムに入る窓口（ポータルサイト）を作る。その場合、当該サイトを管理する機関・団体のホームページからか、ごく限られた機関・団体のホームページからしか入れないようなポータルサイトでは、利用者にとって不便である。このため、すべての関係の機関・団体のホームページに、ポータルサイトであることを示すロゴマークを掲載し、利用者は、そのロゴマークをクリックすることによって最善の情報源に到達できるようにすることが求められる。
3. 当センターが平成12年8月に農業者に対して実施した「農業情報に関するアンケート」によると、約9割の者が問合せ回答サービスが開始されれば、利用すると回答しており、また同時に実施した農業改良普及員に対するアンケートでもほぼ同様の結果が得られており、問合せ回答サービスに対するニーズは、国民各層にあるものとみられる。現在、農林水産省本省に対して問合せがあれば、各課に関するものは大臣官房情報システム課が、消費者からのものは「消費者の部屋」が対応し、また統計情報組織においては「農林水産情報センター」が回答に当たっている。同様に関係団体においてもそれぞれ問合せを受けたところが対応している。しかしながら、回答内容等に関する情報

については、交換されたり、共有されていない。

問合せ回答サービスは、農林水産業、食品産業やそれに関する政策の理解・浸透を図る上で、不可欠のものである。このため、専門家を取り込んだ体制を作り、広く国民が関心を持つと思われる課題については一問一答（よくある質問）を整備し、ホームページ上に掲載することとし、一般的な質問には一問一答を紹介することによって回答サービスの効率化を図るとともに、一問一答では対処できないものについては、当該質問に対して最も回答するに相応しい者（組織・団体）が質の高い回答を行うことができるよう、サービス体制を構築することが求められる。さらに当該質問に関する情報を関係者で共有を図ることが求められる。

4. 農林水産省から提供される情報については、農業改良普及センター、統計情報組織等において地域にあった形にして提供されているが、市町村や農協、普及センターが協力して地域の農業者等に情報を提供している第三セクターもいくつか生まれ活動している。このような第三セクターが創設された背景としては、地域の社会的経済的条件が異なることから全国的な生の情報では地域に合わないことが多いことによるものである。しかし、このような第三セクターの活動をみると、関係者の懸命の努力にもかかわらず、提供情報の質が十分でなく、アクセス件数も少なく、投資に見合った成果をあげていないとみられるものがある。このため、これらの第三セクターに対して農林水産省から積極的に活動を支援していくことが求められる。また、農林水産政策の理解と浸透をこれらの第三セクターを通じて図るという面からは、これらの第三セクターに対して記者発表やパブリックコメントに関する情報を届けるといったサービスが求められる。
5. 市町村や農協等の職員においては、日常業務に追われているのが現状であって、日常的にインターネットで情報を検索し、入手している者は少数であるとみられる。また、農業者や消費者の場合は、インターネットを通じて農林水産分野の情報を積極的に得ようとしている者は、特別に必要とする場合以外は行っていないとみられる。

情報を配信するサービスは、現内閣が開始しており、農林水産省でも開始しているが、このサービスをさらに拡大して、個々の登録者の希望したジャンルの情報のみを提供していくサービスにしていくことが望まれる。

## 英国の農業指導サービスの民営化の功罪(上)

英国の農業指導サービス（普及事業）を担っていた NAAS（National Agricultural Advisory Service；国立農業指導所）は、いくつかの民営化へのステップを経て、1997年、完全に民営化された。

NAASのこれまでの歩みをみると、1946年に設立され、50年代から60年代、試験場や研究所を設置するなど、順調に発展していった。71年には、現在の組織の原型が整い、この時点で5つの部門で、5,000名の技術スタッフを擁していた。転機が訪れたのは、84年から翌年にかけて実施されたレビューである。このレビューで指導事業の有料化が決定され、86年に実施された。さらに、英国政府が進めたエイジェンシー化政策の一環として、92年に「実行機関」(Executive Agency)としてADAS (Agricultural Development and Advisory Service；農業経営指導所)と改称され、発足する。「実行機関」は、わが国で独立行政法人を構想する際のモデルとなったものである。さらに96年には97年4月1日から民営化することが宣言され、予定どおり民営化された。

昨年11月に当センターが行った訪問調査によると、現在のADASの職員は1,300人（このほか臨時職員が100～150名いるとのことである。民営化の過程で約3分の2がADASを去っている。）で、年間売上高は、5,500万ポンド（約100億円）である。コンサルタント部門のほか、研究部門を有しており、国内に研究とコンサルタントの拠点を併せて約30か所持つ。英国政府から政策評価（Policy Evaluation）を請け負ったり、コンサルテーション（英国政府が政策を決定する場合、あらかじめ利害関係団体等の意見を聞く制度）の実施に当たって助言をするなど、政府との関係は密接である。またコンサルタント事業についても英連邦諸国ほか、ロシアの農業指導事業の受注に成功したとのことであり、海外事業の展開に意欲的である。なお、拠点の研究農場は政府からの借地とのことである。

一日だけの訪問調査でADASの成否を断定することは、差し控えなければならないが、民営化されたADASは、生き生きと事業を展開しており、インタビューに応じた者は、意欲的で、能力もあるとの印象を受けた。現時点でADASの民営化を評価するとすれば、「合格点」は間違いないであろう。

しかし、英国の農業の置かれた厳しい状況を見ると、ADASの民営化は成功であったとしても、多くの問題を残しただけでなく、新たな問題も引き起こし

たのではないかと疑念が出てくる。

全国農民連盟（NFU）の資料によると、

- \* 99年の1戸当たりの純農業所得は、
  - ・豚および家禽では、2年前の15,200ポンドから8,000ポンドになった。
  - ・酪農では、2年間に41%減少し、8,000ポンドになった。
  - ・肉用牛および羊では、2年間に50%以上減少し、2,500ポンドになった。
  - ・穀物では、4年間に80%減少し、8,500ポンドになった。
- \* 99年6月までの12か月間にイングランドおよびウェールズの総農業従事者は、4.3%減少した。
  - 経営部門別にみると、酪農△6.7%、穀類△6.5%、豚および家禽△9.7%、複合経営△12.4%となっている。

その原因として、ADASで受けた説明によると、次の5つが考えられるという。

その一つが英国ポンドがEUの共通通貨であるユーロに対して強いことから来る英国農産物の価格高による競争力の低下。

二つ目が国際的な商品価格の低下。

三つ目がBSE牛。

四つ目が生産コストの上昇。

それらに追い討ちをかけたのが口蹄疫の発生である。

確かに、一点目については、農業サイドの要因ではなく、むしろ被害者であるが、しかし、BSEと口蹄疫の問題については、原因を作っていないといえないものであり、価格・コストの問題は、他の国と置かれている状況は、それほど変わりはない。にもかかわらず、これほどの厳しい状況に追い込まれることになったのは、どうしてか。

英国農業・農村の置かれている厳しい状況は、農業者の自殺率が他の職種の2倍であるとされることから伺うことができる。これは、歴史的な高さであるといい、まだ増加傾向が続いているようで、96年には自殺防止を目的とした非営利団体「農村ストレス情報ネットワーク」まで設立されている。

このような状況を放置できなくなった英国政府は、2000年、無料の農場経営指導サービス（Farm Business Advice Service）を開始することになった。しかし、英国政府には、農業者とコンタクトを取るための施設（出先機関等）がなかった。対策が後手後手になったと言われても仕方がないであろう。

次号では、無料の農場経営指導サービスについて述べることにする。（谷口）

## 用語解説

## 監査 Audit

わが国では、AuditをFinancial Auditの意味に限定的に捉え、Evaluationとの関係を意識していない文献が散見される。

本号と次回と次々回の用語解説では、AuditとEvaluation、Reviewのそれぞれの意味、相互の関係について述べることにする。

次にみるように、Auditは、OECD（経済協力開発機構）の解説に従えば、「評価」と訳しても何ら支障がないと思われるが、「評価」では、Audit、Evaluation、Reviewと区別がつかなくなるので、一般に用いられている「監査」とするのが適切であろう。

OECDのGlossary of Key Terms in Evaluation and Result-Based Managementによると、Auditは、「ある組織の活動に付加価値を与え、改善することを目的とした、独立の、達成目標保証活動（objective assurance activity）である。Auditは、体系的かつ統制のとれたアプローチを取り入れ、リスク管理や管理・統治プロセスの有効性を評価（assess）し、改善することにより、組織目標の達成を支援する。」とし、「正規の財政監査（Financial Auditing）は、適切な法規や規則の遵守に焦点を当てるもので、これに対してパフォーマンス監査（Performance Auditing）は、妥当性、経済性、効率性、有効性に関するものであり、両者は区別されている。内部監査（Internal Auditing）では、幹部に対して報告を行う部局によって実施される内部統制（Internal Controls）のアセスメントが行われるのに対して、外部監査（External Auditing）は独立の組織によって実施される。」としている。

カナダ連邦政府では、Audit、Evaluation、Reviewを区分して用いるとともに、実際の評価作業においてもそれらの特徴を生かしていることで知られている。

カナダ財政委員会事務局（Treasury Board of Canada Secretariat）の評価センターは、当センターの問合せに対して、Auditは、管理プロセスの健全性を検査

（examine）するものであるとした上で、次のような質問に対して答えを出すことであると回答している。

- \* 組織内部で用いられている管理プロセスは健全であるか。
- \* 組織のリスクが適切に確認され、管理されているか。
- \* 上級管理職が政策決定に当たって頼れる財政および非財政的情報があるか。
- \* 当局が尊敬されているか。財産が保証されているか。健全な経営管理手法がとられているか。

カナダでは、各省が財政委員会の指導を受けながら、内部評価をすることになっており、このため、連邦農業食品産業省（AAFC）には、評価部（Review Branch）が設置され、省内の政策、施策、計画についてAudit、Evaluation、Reviewを実施している。評価部には、Evaluation班、Financial Audit班、Audit班が置かれ（Review班はない）、それぞれ5名から8名で構成されている。評価部には、このほか計画調整班、特別プロジェクト班、中央組織調整班がある。

本年1月に出された「カナダ農業農村コミュニティ計画（CARCI）に関する監査最終報告」（Audit of the Canadian Agricultural Rural Communities Initiative, Final Report）をみると、このAuditの主たる目的は、

- \* CARCIは、カナダ適応農村開発（CARD）プログラムの財政委員会によって承認された条件に沿って運営されているか。
- \* 移転支払いに関する財政委員会の方針が該当する場合、CARCIはその方針に従って運営されているか。
- \* 地方事務局は、以下のような計画のための効果的な管理統制の枠組みを開発し、導入しているか。
  - \*\* 信頼性のあるリスク・マネージメントの実践
  - \*\* 寄付的支出に対する適切な統制
  - \*\* 政策決定や報告目的のための信頼性のある情報

わが国では、政策評価、すなわちアウトカムと受けとめられているため、多様な評価手法を見逃すおそれがある。

## 編集後記

当センターのサイトに、調査報告書のリストを載せて関心のある方に配布するようにしました。これらは単なるデスクワークではなく、予め情報を集め現地調査で補足確認したもので、独自の価値があると自負しております。

さて、今年も準備の勉強で汗をかいていますが、英語圏以外では、期待する文書の英語版が少なく苦勞します。在日大使館に聞くと、翻訳して公表する意味がないのは載せないといひます。改めてサイトの意味を考えさせられます。農林水産省の英語版ホームページも確かに項目は少ないですが、問合せのe-mailアドレスが載せてあるのは評価すべきでしょう。（後藤）

## AFFPRI report

平成14年8月15日 No.22

(財)農林水産奨励会・

農林水産政策情報センター

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル 9階

TEL 03・3568・2107

FAX 03・3568・2108

URL <http://www.affpri.or.jp/>